

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-2
消防防災対策の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

消防総務課長 荒木 正秀

電話番号

0852-22-5886

事務事業の名称	常備消防体制整備事業	
目的	(1) 対象	救急救命士
	(2) 意図	気管挿管、薬剤投与のできる救急救命士の比率を高める。
事業概要	1 消防関係の各種統計を集計分析し、消防防災行政施策の基礎資料とする 1) 消防関係各種統計電算処理委託する 2 県民の救急救命効果を向上させるため救急業務の高度化を図る 1) 救急救命士の養成 2) 消防と医療機関の連携（メディカルコントロール体制の整備） 3) 市町村消防の支援のため、現場救急業務が可能となる救急ヘリコプターの体制整備を図る 3 起震車による地震体験を通じて、県民の防災意識の啓発と広報活動を図る	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	救急救命士のうち気管挿管のできる救急救命士の割合	目標値		52.0	53.0	53.0	54.0	%
	取組目標値								
	式・定義	救急業務を高度化するため、気管挿管のできる救急救命士を増加し救急救命率を高める。	実績値	48.9					%
	達成率		-	-	-	-	-	%	
2	指標名	救急救命士のうち薬剤投与のできる救急救命士の割合	目標値		95.0	95.0	95.0	95.0	%
	取組目標値								
	式・定義	救急業務を高度化するため、薬剤投与のできる救急救命士を増加し救急救命率を高める。	実績値	91.5					%
	達成率		-	-	-	-	-	%	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	19,898	14,455
うち一般財源 (千円)	10,018	10,545

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 気管挿管のできる救急救命士の割合については、各消防本部も積極的に養成を進めているが、認定に際しては30症例以上の実習を実施する必要があり、消防本部によっては実施機会が少ない等の理由により伸び悩んでいる。薬剤投与のできる救急救命士の割合については、今後も目標値の100%に近づく見込みである。
 救急救命士の数 H25年度 258人、H26年度 272人、H27年度 293人
 気管挿管資格者数 H25年度 122人、H26年度 136人、H27年度 146人
 薬剤投与資格者数 H25年度 256人、H26年度 270人、H27年度 286人
- 起震車の県民の利用状況については以下のとおり。
 H25年度 75回 4,827人、H26年度 67回 4,235人、H27年度 76回 3,961人

6. 成果があったこと（改善されたこと）

気管挿管及び薬剤投与のできる救急救命士は、全体として認定数は増加している。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 気管挿管が行える救急救命士の養成にあたり、認定のために30症例以上の実習を実施する必要があるが、消防本部によっては、実施機会が少ないため長期間（数か月）を要する。
- 起震車が故障により過去に実際に発生した地震の再現ができず、県民の地震に備える知識・技術の修得・意識改革が十分にできない状況にある。

②困っている状況が発生している「原因」

- 消防本部によっては、気管挿管の実習の実施機会が少ないため。
- 平成5年度の起震車の取得後、23年が経過し経年劣化が進んでいるため。

③原因を解消するための「課題」

- 気管挿管の実習の実施機会が少ない消防本部において、実施機会の確保を図る必要がある。
- 過去に実際に発生した地震の再現ができるよう、起震車の能力を確保する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 気管挿管の実習の実施機会が少ない消防本部においては、管外医療機関の協力を得るなどして機会が確保できるよう取り組んでいく。
- 起震車を更新するなどにより、県民が地震体験を通じて防災学習を行う機会を確保していく。

9. 追加評価（任意記載）

課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。